

森林吸収量の算定方法等に関する検討会（第1回）概要

日時：令和6年9月3日（火）13:00-15:00

場所：4号館共用第3特別会議室（オンライン併用）

議論（1）森林吸収量の算定・計上方法の見直しについて

●FMについて

- ・ NFI のデータが充実してきたことを契機に、従前の FM の定義から、よりふさわしい FM の定義へ見直すことは意義がある。（各委員）
- ・ これまで FM 調査には過去の履歴を把握するなど手間がかかっていたので、NFI をうまく使いながら、今の状況だけを見て持続可能な状況を客観的に判断できたら良い。
- ・ その時その時の状況で FM 率を算定すると、割合は大きく上下することが予想されるので、現状の FM 率をそのまま使っていくという整理もあろう。
- ・ NFI を用いた FM 判定は、現地で調査員が迷わないよう明確な判断基準が必要。
- ・ 天然林の吸収量の大きさは二次林の遷移の進行によるものと考えられるので、おそらく白神山地のような自然性の高い天然林とは状況が異なる。天然林の FM 率の集計方法にどのようなものがあるのかを整理してほしい。
- ・ 2030 は京都議定書の第2約束期間の延長なので、急に FM を取り払うのは難しいことについて理解。2050 カーボンニュートラルの段階になれば FM の概念はなくなるので、FM の再定義はあくまで移行的な措置と認識。
- ・ FM 率は政策目標であり、パリ協定下での国際審査の動向をみると、FM の定義そのものが議論になることはあまりなく、透明性をもってわかりやすく説明できていれば良い。例えば国立公園の1種、2種は FM に該当するが、3種が該当しないのはなぜかという質問を受けることも多く、天然林の伐採規制を判断基準にするのは見直してもよいかもしれない。

●NFIの活用について

- ・ 従来の森林簿と収穫表を用いて算定する方法では統計的な誤差を出すことが出来なかったが、NFI のデータをそのまま使うのは実態に合っていてより科学的な算定になる（各委員）
- ・ NFI でどのように人為性を判断するかは検討が必要。
- ・ 人工林の吸収量算定方法は見直しを重ねており、保守的な算定なので問題はないが、天然林の吸収量算定方法については植生の専門家の意見も含めて議論してほしい。
- ・ NFI を用いて侵入木を追加するという説明だと、侵入木がたくさん入ったほうが吸収量を獲得できるという誤解に繋がるおそれがある。持続可能な経営が行われている森林を FM 林と再定義することで、良い森林を目指すというメッセージになるのではないか。
- ・ 人工林を混交林や複層林に変えていこうという動きがあるが、今回算定対象に侵入木を含めていこうという中で、森林蓄積の算定方法について、考え方を整理する必要がある。

●土壌について

- ・ 諸外国では風倒被害や山火事があればその影響を組み込んだ算定モデルも存在するので、日本も同

様の算定になり得るかは検討が必要。

- ・ 枯死木を NFI で評価するか CENTURY-jfos で評価するかは議論が必要。
- ・ 現状は間伐等の伐採を念頭に算定していたので、攪乱は考慮に入っていない。全国を念頭に算定を行うことを考えると、攪乱の影響は小さいと考える。CENTURY-jfos の枯死木の量については文献調査と枯死木調査の整合も確認した上でモデルに算入しているが、天然林については細かい樹種情報にはなっていない。CENTURY-jfos は NFI と同じ地点（末尾が 0 と 5 の点）の調査結果を用いて調整されている。

●その他

- ・ 拡大係数が 21 年生以上と未満とで区切られているが、高齢級が多い現状では過大評価につながるおそれがある。拡大係数の林齢区分を増やす方法や蓄積別に区分する方法など、高齢級の実態を踏まえた見直しが必要。
- ・ 拡大係数は、外国からはなぜモデルにしないのかという質問も受けている。海外は樹種による区分がないので、その点では日本の方法は幾らか精緻化しているという整理もあろう。材積表や拡大係数については、森林総研が過去に受託して実施した調査データはたくさんあるので、使えるものもあると思う。

議論（２）森林吸収量目標の設定について

●将来推計等について

- ・ 将来推計の方向性は問題ない。（各委員）
- ・ NFI のデータをそのまま使うのは実態に合って良いが、将来予測をするに当たっては収穫表（成長モデル）が便利。植生遷移だけでなく、病虫害によるダイナミックな変化も含めた将来予測はなかなか難しいので大きな技術テーマなのではないか。
- ・ 排出側の将来予測には経済動向や人口動態が良く盛り込まれており、森林吸収量の将来予測に当たっては、施業や攪乱の影響をどうカウントしていくかが重要。
- ・ 2050CN を見据えると、広葉樹の蓄積変化の把握が重要。生産量から国内の供給可能量を示してもらうとともに、バイオマス発電の増減や HWP の増減なども含め、政策による吸収量の変化も見せてほしい。天然林吸収量を確保していくための施策の提案もよろしく願いたい。
- ・ 高齢化に伴う天然林吸収量の減少が予想されることが見えてくれば、天然林を若返らせる活動にも繋がる。
- ・ 木材製品による排出削減効果を数字で示してほしい。数字で示せれば、それをどんどん増やすことが木材利用の推進へのメッセージにも繋がる。森林の循環利用が温暖化対策には効果が高いということをもっとアピールしたほうが良い。
- ・ 2～3 年かけて見直す内容と、次期 NDC に向けて検討する内容とを整理したほうが良い。
- ・ 全体的に都道府県区分での集計となっているが、細かすぎるのももっと大括りの地域集計や植生区分別などで推移モデルを作ってみてはどうか。
- ・ 全国的な評価になるのであれば、風倒などの攪乱は全国レベルで見たら影響が小さいと考えられ、このような攪乱を考慮するべきかを含めた検討をする必要がある。

（以上）